

合同

No. 482

「どうか破いてください」

東浦和教会牧師

和泉美和子



「そして、イエスはたとえを話された。『だれも、新しい服から布切れを破り取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい服も破れるし、新しい服から取った継ぎ切れも古いものには合わないだろう』(ルカによる福音書5章36節)。

わたしたちの生活の中で、「破れる」「引き裂く」というようなことは避けたいことで、そうならないようにどうにか努力する事柄ですから、「どうか破いてください」なんて一体どんな願いかと思われることでしょう。しかし、聖書の中には、神のご計画が実現するために、新たな道を切り開く方法として、神ご自身が裂いたり破いたりということがおこっています。一例ですが、墮落した世を一掃しようと神が洪水を起こされる時、「ノアの生涯の第六百年、第二の月の十七日、この日、大いなる深淵の源がことごとく裂け、天の窓が開かれた」(創世記7章11節)という記述もあります。

「新しい服から取った継ぎ切れも古いものには合わないだろう」というのは、洋服の破れたところをつなぐ役目として、新しい布を古い服に縫い付けると、新しい布の力が古い服を引き裂いてしまうことを言っています。イエスさまの時代は、化繊の布ではなく、綿やウールです。ウールのセーターは洗うと縮みます。新しいとなおさらです。新しい布の縮み方が大きく、古い洋服を強く引っ張って破いてしまう、という話は想像しやすく、わかりやすいたとえです。

ただ、このみ言葉は、そうならないように気をつけなさいと忠告しているのではなく、当然起こることとして語られています。せっかく新しいも

のが与えられても、受け手の状況によっては、引き裂かれ、破れてしまう。主イエスがこのたとえを話されたのは、当時の律法主義者たちが主イエスの語っておられることを理解できない姿に、新しいもの(主イエス)と古いもの(律法主義)の姿を重ねられたからです。そしてはっきり「合わない」とおっしゃいます。

律法主義者の考え方や生き方は、決して他人事ではありません。わたしたちも、あらゆる領域において、こうでなければならないと、かたくなになることがあります。主イエスの言葉も出来事も、もっと大きく自由で力強いものなのに、自分の古いものを守ろうとして、抵抗しているのです。古いものが壊れないようにと守り続けるのは疲れますし、何より新しいものの良さに気づきにくくなってしまいます。それならば、古いものはいっそ破いていただいて、破かれたことを自覚した先に、新しく始められる道があるということを感じてもよいのではないのでしょうか。

今年も聖霊降臨日を迎えました。主イエスと共に生活をし、その教えをそばで聞き続けた十二弟子たちは、主が十字架にかかり、死なれたときには、それこそ思い描いていた救い主としての姿と違う結末に、その期待をビリビリに破かれたことでしょう。裏切ったり嘘をついたり、十字架の後の復活もすぐには信じられないなど、情けない弟子たちでありましたが、破かれたからこそ、彼らは新しくなれました。復活の主にお会いし、ペトロは主イエスに「わたしを愛しているか」と三度もたずねられ、主を愛する存在につくりかえられていきます。そして、弟子たちは主イエスがおっしゃった言葉は必ず実現する、という思いを一つにして、集まり、祈り続けていたところに、聖霊は降ったのです。愛するかとペトロに聞くごとに、「わたしの羊を飼いなさい」と繰り返し命じられた主イエスの言葉を実現するものとして、ペトロは立ち上がりました。破かれても、いえ、破かれたからこそ、主イエスの福音が広がっていくのです。破かれたところに、主の憐れみと助けが必ずあります。

わたしたちの思いをはるかに超える聖霊の働きを、もっともっと見せていただきたい、そのためにも古くてかたくななところを破いてくださいと、大胆に祈ってはいこうではありませんか。